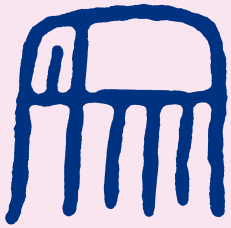


# 同窓會報



〒600-8601 京都市下京区下之町 57-1  
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会  
発行人：同窓会会長 小山 格平  
TEL/FAX 075-585-2093  
携帯 090-7353-6999  
http://www.kyogei-ob.jp  
E-mail office@kyogei-ob.jp



## 京都芸大「作品展2024」の開催

2025年2月7日(金)～11日(火) 10:00～18:00

大学を会場に学部・院で学ぶ全学生の作品を展示しています。今年も京都市京セラ美術館での展示はありません。

## 同窓会員を対象とした企画公募による「申請展」の開催

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAでは、同窓会員を対象とした企画公募による「申請展」を開催しています。大学の附属施設である@KCUAでこそ実施可能な実験精神に溢れた企画や、若手作家による意欲的な企画などが優先して採択されています。2024年度後期からは、この「申請展」を同窓会の協力事業として実施することになりました。例年、前年度秋に翌年度の企画を募集しており、次回(2026年度)募集は2025年9月を予定しています。詳細は次回の会報でお知らせいたします。

### 2024年度 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA申請展

#### 「Dessine-Moi Un Mouton ～羊の絵を描いてよ～ 宇宙用の絵画たち」

会期：2025年1月11日(土)～2月11日(火・祝)

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

企画：和田真由子

内容：非物質のレイヤーが絵画を支えていることを指摘する関口正浩、浮いた状態で完成することを見越した作品を作り続ける和田真由子の2作家に着目し、美術における宇宙時代の遅すぎた到来を寿ぎ、未来へ向けた議論の場を生成します。



「Dessine-Moi Un Mouton ～羊の絵を描いてよ～ 宇宙用の絵画たち」会場風景(撮影：吉本和樹)

#### 「ダイヤモンドから夢を放つペルセウス」

会期：2025年1月11日(土)～2月11日(火・祝)

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

企画：「半透明の美学」と現代の絵画(仮)展実行委員会

内容：美術史家・岡田温司著『半透明の美学』をきっかけとして、現代(とくにコロナ禍を経た今)における絵画の意味を再考しようと構想された展覧会です。大学院美術研究科絵画専攻油画の修了生の阪本結、下村悠天、西原彩香、在学生の橘葉月、峰松沙矢の5名が出品します。



「ダイヤモンドから夢を放つペルセウス」会場風景(撮影：吉本和樹)

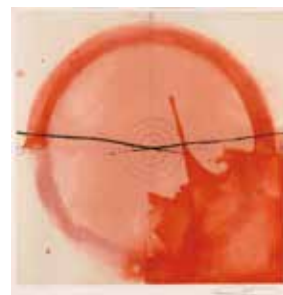
#### 「版画専攻 創設55周年記念展 レガシー・プリントアーカイブ」

会期：2025年3月18日(火)～2025年4月6日(日)

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

企画：京都市立芸術大学美術学部版画専攻研究室

内容：版画専攻研究室が収蔵する版画作品、30年にわたり卒業・修了する学生が制作し、残っていた『ポートフォリオ(小作品集)』や、歴代の先生方が使用された、銅版、板木、ポジフィルム、原稿、スケッチなど、作品のバックグラウンドに位置する貴重な資料などを教育現場との関わり合いも含め広く紹介します。



参考作品：井田照一  
《Well From Karma -Trap in Echo No.10》 1989、銅版画

## Head line

同窓会員を対象とした企画公募による「申請展」の開催……………	1	2024年度「京都市立芸大同窓会美術公開講座」の報告……………	8
新校舎の専攻紹介 <日本画専攻>……………	2	Relay Talk 象の会・いろあわせせ⑩……………	9
同窓生だより《部活/記憶の彼方》⑥ 卓球部……………	4	学内消息(資料)……………	10
2024年芸大祭居酒屋「象の店」繁盛記……………	6	会員展覧会……………	10
退任あいさつ……………	6	事務局だより……………	12
2025年度全体総会・懇親会開催の予告……………	6	編集後記……………	12



図1 日本画制作室(1回生)

2023年10月、沓掛から移転した京都駅前の新校舎D棟3階、4階、5階に日本画専攻は配置され、学部生、院生合わせて約100名が学んでいます。博士課程学生はC棟6階の博士ラボで制作しています。D棟3階は連絡橋でC棟とつながっており、講義室、図書館へは行きやすいと感じます。学科授業が終わってからの制作室への移動もスムーズで、有り難い立地だと感じます。

さて、新校舎の日本画専攻の施設と取り組みを紹介します。D棟3階には、合同研究室、ドローイングルーム、資料室(書庫)、模写室、実習作業室、フォトブース(油画専攻と共用)があります。日本画制作室は3階に1部屋、4階に4部屋、5階に6部屋あり、各階に作品倉庫と男女トイレと多機能トイレが設置されています。D棟には荷物用エレベータが設置されていますので、日本画専攻と油画専攻(D棟6階7階)の大型作品の搬入出が安全に行えるようになりました。

日本画制作室(図1)は沓掛校舎と同様に、床はフローリング、靴を脱いで入室し、空間を衝立で仕切るといった仕様です。多くの制作室は南側または東側に大きな窓が設けられており、パーチカルブラインドで採光を調整します。窓からの景色は、京都駅東側を走る新幹線、JR車両、東山の眺望が臨めます。(今後、D棟南側には別の建物が建築予定です)。日本画専攻全体の床面積は沓掛校舎よりも広くなりましたが、天井の高さは、沓掛校舎ほどではありません。また、沓掛校舎では各制作室に水場がありました。同窓生のなかには覚えておられる方もいると思いますが、特殊排水と札が下がった蛇口をひねると、まず、茶色がかかった水が出ていました。この水を飲料水にするのは躊躇われるので、制作室から出て、階段踊り場にあるペンキまみれの給湯室から水を汲んできたものです。時々、制作室内の水場の排水管を詰まらせて、大学設備職員さんのお世話になったことも思い出します。

新校舎の日本画制作室は、学年末の作品展会場に使用することを想定し、室内に水場を備えず、廊下に設置しました。水場は、各階に2~3箇所あり、1箇所につき広いシンクが2~3つあります。各階1箇所の蛇口は温水が使えます。数ヶ月に一度、設備管理業者さんがシンク下のプラスタートラップの清掃してくださるので助かっています。とはいえ、共用の水場で、大勢が絵皿、絵筆を洗うことで流してしまう顔料や膠は、排水口を詰まらせてしまいますし、環境面にも好ましくないことから、日本画専攻ではバケツを配布して溜め水で予洗いし、顔料を沈殿させた後に排水するようにしています。清掃も学生相互で心がけるようにし、沓掛校舎の給湯室のような状

態になるのは、なんとか避けたいと思います。

また、沓掛校舎での日本画教員は、事務机を並べた合同研究室が定席でした。その理由は、教員の個人研究室を作品倉庫やデッサン室に転用してくださったからだと思います。新校舎では、全専攻教員に個人研究室が割り当てられています。日本画教員も各々の研究活動、面談、ゼミ等に活用しています。そして、合同研究室は、約8名が囲める大きさのミーティングテーブル、オフィスキッチン、教務補助職員用のPCデスク、非常勤講師用のロッカー、TA(ティーチングアシスタント)用PC、学生貸与の道具や展示用備品の収納を備えています。沓掛校舎の合同研究室と向かいの倉庫と合体したような機能をもたせました。

D棟3階にはドローイングルームが2室あり、そのうち1室は日本画専攻の人体デッサン用です。部屋は広く、天井が高く、ゆとりを感じる空間です(図2)。平日午後はいつでも人体デッサンができるように運営しています。

資料室(書庫)は、沓掛校舎の書庫と同様、日本画研究室で管理している大学図書や、寄贈図書を開架し、貸出管理は日本画研究室で行なっています。沓掛校舎の本棚は、奥行きが深かったため本の収納が二重になり、目当ての本を探すのに難儀していましたが、新校舎ではその問題を解消しました。また、マップケース2段を2台並べて設置することで平場を確保したので、大型本や図版等を複数冊広げた閲覧が可能になりました。加えて、日本画制作資料アーカイブ活動(学内特別研究助成2021-011)で整理した高谷伸吉(1915年絵専卒業)、林司馬(1927年絵専卒業)の写生や下図を木製筆筒、中性紙箱、紙筒、マップケースに収納しています。

沓掛校舎に無かった施設は、制作室3と実習作業室です。制作室3は3階テラス側が全面ガラス張りの日本画制作室です。現在、学生の制作場所には割り当てておらず、合評やワークショップに使用しています。合評のために制作室を片付けて場所を作らなくても、荷物用エレベーターで作品を制作室3に搬入して、すぐ始めることができます(図3)。作品展やオープンキャンパスの時には、開放的な展示空間となります。実習作業室は、表装作業や鋳物を粉砕する顔料作りなど、日本画制作以外の作業部屋です。長尺の裏打ちができる盤板等も導入し、作業がしやすくなりました。アーカイブに取り組んでいる画材の収納と、大幅の掛軸が掛けられる壁面を確保しました。芸術資料館からお借りする資料の鑑賞に適した場所となって



図2 ドローイングルーム

います。

どの部屋も、空調はエアコン使用が基本です。冬場には加湿器は欠かせませんが、学生は広く快適な空間で制作に励んでいます。

さて、移転後の日本画研究室では、日本画制作に関連する資料のアーカイブを開始しました。京都府画学校を淵源に持つ日本画専攻では、日本画表現を学ぶ学生(人材)、先人の写生等(実物資料)、日本画制作に欠かせない顔料や道具(画材)を結節することによって、日本画制作の継続そのものがアーカイブになると考えています。京芸では、芸術資料館が卒業作品や資料の収集と保管に努められており、日本画実技においても芸術資料館の収蔵品を活用した教育環境は整っています。そのなかで、日本画専攻がアーカイブするのは、美術館や資料館の収集から抜け落ちる類のもの、例えば、画室で画家の最も近いところにあるモノ、作品の副次物とみなされる写生、下図、画材などを指しています。完成作品とは異なる魅力があり、学びの最中である学生にとっては、最も身近で参考になる資料と言えるでしょう。なにより、このアーカイブの特徴は、実技教育の現場で「使う」ことに重点を置いています。写生であっても、画材であっても手にとって実物を直接見て、触れる経験というのは、感覚や手技の育成に資するものです。資料保存の理と隔たることは承知していますが、本学資料館の模本から直接、模写をして学んだ経験のある筆者は、実物が教えてくれることの手応えを信じています。人材育成が第一義の日本画専攻において、現在、日本画を描いている人の「見たい」「知りたい」「触れたい」に応えることができる創造的なアーカイブの構築を目指しています。

移転に際し、川嶋渉教授が収集した画材の一部を日本画研究室に寄贈してくださったことをきっかけに、画材のアーカイブ(本学特別研究助成2024-006)を進めています。悉皆調査の後、京都府画学校の建学者、望月玉泉氏の曾孫にあたる望月重延名誉教授(漆工専攻)が寄贈してくださった顔料等を、院生等によってアーカイブしました。手描きの資料カード242枚を作成し、資料情報をデジタルデータベースにまとめました。画材の画像化には、国立情報学研究所から資産譲渡された高精細非接触スキャナーが役立ちました。スキャナーの委譲は2022年に話を受けましたが、新校舎移転を待って、手続きをとり、合同研究室に設置することができました。新校舎移転があったからこそ受け入れが可能になったといえます。立体物の他に日本画作品(最大20号)のデジタル化に活用することができました。

このアーカイブの対象は、古い時代のモノばかりではありません。日本画表現の来し方行く末を考えるならば、近況を丁寧に刻んでいくことが肝要と考えています。この点では、故谷口青児准教授が遺した写生や草稿を辻野宗一先生(2024年度非常勤講師)が取りまと



図4 谷口先生写生閲覧



図3 4階テラスに面した制作室3

めて寄贈してくださった一群は、近現代の資料なので学生たちに響くものだと思います(図4)。今後は、現在進行形である基礎課題の作品を収集することや、京都および京芸に縁のある方や事柄にアンテナを張り、アーカイブを充実させていく予定です。始まったばかりですし、保管場所など様々な課題はありますが、試行錯誤しながら進めていきます。人も時間もかかりますが、携わる教員、院生、学生が地道に繋ぐことによる資料体の構築が、日本画教育へ循環することが理想です。大仰かもしれませんが、「京都の日本画制作のことは、京芸に在る」を目指してみたいと思います

さて、新校舎には沓掛と比べて、不足していることもあります。一つは、自然を感じる機会です。新校舎の立地は、動物園にも植物園にも美術館にも行きやすくなりましたし、東山の眺望や鴨川周辺で四季を感じられるとはいえ、枇杷やヤマモモの実の楽しみに待ち、桂の樹の葉がふれあう音に耳を傾け、丸池を取り囲むドウダンツツジの真っ赤な紅葉といった沓掛では当たり前だった風情はD棟周辺にはありません。そこで、D棟3階制作室3の上部、排水が完備された屋上(4階テラス)の活用を考えています。4階テラスについて、新校舎設計者のアイデアというのは、沓掛校舎で飼っていた鶏の飼育を想定した屋外スペースでした。しかし、市街地での鶏飼育は鳴き声や鳥インフルエンザ感染などの懸念が払拭できず、断念するしかありませんでした。ちなみに、沓掛で飼育していた鶏雄5羽、雌1羽の計6羽は、方々に尋ねて、受け入れ先を見つけ、無事に引き取っていただきました。現在、日本画卒業生(2015年度)で造園業を営んでいる高橋めぐみさんの助力を得て、草花の植栽を計画しています。折々に咲く花や健やかに育つ草木が日本画専攻の中庭となることを期待します。学生は、沓掛での鶏の世話、新校舎での植栽の世話を通して、自然のモチーフに親しむという経験を培うことになるでしょう。

大学移転という節目を終え、日本画専攻は新たな場所でスタートしています。京芸日本画のこれまでを尊重し、これからを築いていくことを意識すると胸躍るものがあります。沓掛校舎で使っていた木製棚や絵具棚等で使えるものは持ってきて使用していますが、老朽化した備品は廃棄、買い替えをすることになりました。移転関連の購入や買い替えについては、大学に寄せられた寄付によって、日本画専攻に必要な設備、適切な物品等を揃えることができました。大勢の皆様が京芸を支援してくださることに深謝し、励みにして参ります。なによりも学生が各々信じる理想に向かって日本画制作に夢中になれる学び舎を築いていきたいと考えています。

## 卓球部

長谷川 大二  
(1973年工芸科染織専攻卒業)



3年生時の筆者

卓球部のルーツは、漆芸作家の望月重延(玉船)現京都市立芸術大学名誉教授によると、先生が1回生の今から60年程前の1963年から1964年頃、講堂に体育の友清先生が授業で使っていたのか卓球台が1台あり、同級生数人と卓球をやり出したことにあるとのことです。

1969年(昭和44年)、私は当時今熊野にあった京都美大に合格したが入学時は名称が京都芸大と変わり、芸大一期生として入学。すぐに卓球部に入部しました。

卓球部の練習場は本館3階の講堂で、剣道部も一緒に使っていました。絵画作品を講堂で制作する学生も多く、卓球台が制作台に使われることもあり、絵の具が付着し傷だらけでした。木張りの床は上に板を置いて補修した跡があり、蹴躓きそうになることもありました。剣道部は足の裏にソゲが刺さることもあったようです。壇上に置いてあるピアノを弾く女子学生もいて、老朽化した講堂は何でもありの今で言う多目的ホールのようになっていました。

### 1969年(昭和44年) (以下敬称略)

私が入学時の部長はデザイン奥野隆洋。この年、5月の三美大祭は東京芸大で開催され私も遠征しましたが、まだ入学して一月余り、試合等の記憶が全く無く、残念ながら記述出来ません。三美祭後の部長は染織佐藤君夫。京都女子大との練習試合では4年生以下先輩も参戦しましたが、インターハイに出るような相手もあり全く歯が立たず惨敗しました。その後、大学紛争や1月早々に染織専攻の教室のある木造校舎が焼失するなど、激動の1年目でした。

### 1970年(昭和45年)

私は中・高と卓球部だった1年上のデザイン杉本真治に基礎から卓球を教えてもらい、2年生になって結構様になってきていました。同期は西洋画田村正仁、塗装辻喜代治・松田敏男と私長谷川とで4強を自認していました。(余興という説もあり) 5月の三美大祭は京都芸大で開催。卓球部は西京極体育館で試合を行いました。金沢美大が優勝し、金沢美大、京都芸大の部員を中心に試合後体育館の辺りで優勝カップにビールを注いで飲み、染織宮田恭伸の「回転禁止の青春さ」の歌と振りが飛び出すなど、いつものコンパさながらのバカ騒ぎで交流を深めました。



西京極体育館



他大学の部員達と



部旗「誠」



前掛け「マルタク」



ユニフォーム

三美祭後、私が部長になり、対外試合は京都薬大へ。団体戦はシングルスに出た私のみ勝って惨敗。帰りに私だけが薬大の丸池にほり込まれ、京都芸大の丸池と違って深くてびっくりした記憶があります。夏休みに卓球部の旗を作る事になり、辻喜代治の発案で京都らしく新選組の「誠」の旗がいいという事で、同期の染織大島良晴と染色実習室で染めました。蠟ケツ染めで、私が文字などを筆で蠟書きし、ナフトール染料で引き染めし、濃紺の部旗を作りました。その少し後に、コンパ用に金太郎さんの前掛けを模した「マルタク」の前掛けも型染で何枚か染めました。卓球部のユニフォームは女子部員が美大の校章をフェルトでアップリケしてくれたものを使っていました。



「焼トウモロコシ屋」



体育館の壁面に「誠」の部旗を掲示



優勝トロフィーを受け取る北岡真知子

夏休みには日本海側の間人の民宿に泊まり、この「誠」の旗を部屋に掲げ、卓球合宿を行いました。練習は近所の間人小学校の体育館を借り、10分刻みのスケジュールをたて、練習に励みました。ウサギ飛びなども課したため、終了後、皆民宿の階段がまともに上がれず這って登る始末。しかし後半は慣れて来て練習後は近くのプールで泳いだり海水浴を楽しんだりの飽と鞭の毎日でした。

10月祭では卓球部は焼トウモロコシ屋を開店。誰だったか、トウモロコシを中央市場で箱買いして来て、原価1本25円程度を1本大80円、中70円で販売し、3万円程の部費を調達できました。

10月12日から11月30日まで「卓球部強化月間」とし、私がポスターを作成し玄関の掲示板に張り出しました。昼休みと放課後は卓球練習。但し、毎週水・土曜日の昼休みはランニング。卓球練習はあまり覚えていませんが、皆で女坂を登り、豊国廟まで走って、最後の階段がきつかったことはよく覚えています。

### 1971(昭和46年)

1月11日昼休み初卓球。1月13日卓球部練習試合記録簿作る。4月1日～8日卓球部強化練習。4/1出席者、長谷川、大島、辻(午後からさぼる)、松田(遅刻)、田村(午後から参加)、安藤(管理助教で昼まで寝ていたらしい。午後から参加)、松下、北岡、小西、綾(引越しの疲れ?で昼から参加)、中川(9時と間違えて一番に来た)。4月8日強化練習打上コンパを綾、松下の下宿で行う。(以上、私の日記より)

5月の三美大祭は金沢美大で開催。その記事の載った北国新聞の切り抜きから一部紹介します。『第十七回三美大祭の開会式が二十日午後四時半から約五百人が参加して金沢美大グラウンドで行われ、東京芸大、金沢美大、京都芸大それにオープン参加の愛知芸大の四日間にわたる体育・文化交流が始まった。・・・京都芸大の卓球部は、新選組の旗じるし「誠」をひるがえし、お祭り気分をぐっと盛り上げていた。・・・我が卓球部の部旗「誠」の旗は新聞にも取り上げられました。記事には「三美大祭は金沢美大の学生がヤミ米を京都芸大生のもとへ売りに行き、その金で岩絵の具を買って帰る”交流”からはじまったもの」とありました。当時は京都芸大ではなく絵専でしたが、三美祭はこの年が第17回なら1954年から始まったことになります。

試合結果は「卓球男子」は京都芸大2位。写真を見ると「卓球女子」が得点表に無いが、同期の日本画北岡真知子が台上でトロフィーをもらっている。定かではないが女子は3校の参加が無く2校で1位だったのかも。試合後は金沢美大の丸池に皆どどんほり込まれていました。「誠」の部旗は長い竿の先に掲げ、氣勢を上げました。三美祭終了後は私達3回生部員有志6名で行き当たりばったり、羽



強化月間ポスター



他大学の部員達と



高く掲げた「誠」の部旗

昨の民宿に泊まり、能登半島方面を旅しました。

三美祭後、部長を2回生の陶磁器吉川充にバトンタッチ。7月13日、19日、西京極体育館で各3時間、卓球部強化練習を開催。8月12日～18日、間人で卓球部合宿。私達3回生は12日から14日まで合宿に参加。14日夕刻間人を出発し15日からの徳島の阿波踊りの京都芸大連に合流。その後有志で四国旅行へ。19日、合宿に参加していた2回生の卓球部員二人と坂出で合流。その二人から合宿途中で3回生が帰った後、民宿で腸炎ビブリオ菌による食中毒事件が発生し新聞沙汰になったとの話を聞く。部員は皆のたうち回り、トイレにこもり切りの者もいたという報告を受け、3回生は余りの衝撃に笑いこけた。(私の四国旅行メモより)

10月祭で卓球部は去年の「焼トウモロコシ屋」と新たに「駕籠かき屋」も開店。「駕籠」は誰が作ったのかは記憶には無く、乗せても丸池一周ぐらいだが運賃を稼げたのかも不明。

12月16日卓球部内試合:1・2回生組VS 3・4回生組。3-2で1・2回生組の勝利。1・2回生組の勝利は1回生に中・高で卓球部だった彫刻西野康造が入部したお陰か。

1972年(昭和47年)部長/日本画吉岡充。私が卒業後の1974年(昭和49年)、部長/日本画紙田隆とOB代表辻喜代治の連名でOB戦開催の案内葉書が届き参加した。卓球部の部活の詳細を記したOB会報を1976年(昭和51年)部長/デザイン藤田誠と1978年(昭和53年)部長/彫刻今村源とからの2度、自宅に郵送されOB戦の案内もあった。



「駕籠かき屋」の駕籠とその後ろに「焼トウモロコシ屋」

此処からは最近の卓球部OBの活動を記します。以後、現姓(旧姓)表示。

**2011年(平成23年)3月19日～20日京都美大卓球部同窓会：**琵琶湖リゾートクラブで一泊二日の温泉卓球合宿。西洋画山下義宣、日本画白山(今)信子を起点に奥野隆洋が企画。卒業40年ぶりぐらいの先輩後輩入り乱れてのダブルス戦。最初は空振りなど出るも、段々昔の勘を取り戻しつつ大熱戦。宴会は近江牛のしゃぶしゃぶ。40年ぶりの再会でも会ったとたん学生時代の感覚に。一同大いに楽しんだ。「参加者：山下義宣、白山(今)信子、染織井上周子、塗装村田肇一、奥野隆洋、日本画須田(山王)より子、辻喜代治、松田敏男、長谷川大二の9名+白山(今)の夫」。



**2019年(令和元年)8月31日京都美大・芸大卓球部同窓会：**京都四条のレストランにて。温泉卓球合宿参加者をベースに後輩にも呼び掛けて開催。思い出話に花が咲きました。「参加者：山下義宣、白山(今)信子、村田肇一、奥野隆洋、須田(山王)より子、染織大江(玉村)篤子、辻喜代治、長谷川大二、デザイン安藤譲治、染織安藤(辻)庸子、吉川充の11名」。



**2023年(平成5年)10月3日～9日「第1回京美・丸池サロン展」：**於/アートステージ567。卓球部OBが17名出品。山下義宣、奥野隆洋、辻喜代治、長谷川大二の4名で立案し、卓球部OBに声掛けして作品展を開催。私自身は企業に勤めていたので、50年ぶりの作品発表でした。見に来て下さった大勢の方と交流が出来、大いに刺激をもらいましたので、ぼちぼちですが作品作りをやりたいと思っています。「出品者：安藤譲治、安藤(辻)庸子、西洋画井田(川瀬)ふさ子、井上周子、大江(玉村)篤子、奥野隆洋、日本画亀山玲子、

白山(今)信子、杉本真治、須田(山王)より子、西野康造、彫刻西野(甲斐)千保子(遺作)、長谷川大二、彫刻濱坂渉、村田肇一、山下義宣、吉川充。卓球部以外からデザイン阪脇(黒井)郁子。事務局/THE OFFICE辻喜代治」。



**2024年(平成6年)10月5日～14日：「京美・丸池サロン-京都市立美大・芸大卓球部OB展」：**於/アートステージ567。卓球部

OBのみで開催し17名が出品。卓球部顧問をされたことのある望月先生にも卓球部創始者として出品して頂いた。「出品者：安藤譲治、安藤(辻)庸子(遺作)、井田(川瀬)ふさ子、井上周子、陶磁器奥村博美、亀山玲子、陶磁器小林英夫、白山(今)信子、須田(山王)より子、杉本真治、長谷川大二、濱坂渉、松田敏男、望月重延、山下義宣、西洋画山本(杜)千葉子、吉川充。事務局/THE OFFICE辻喜代治」



思えば、卓球部に入部したお蔭で学生時代の思い出は尽きず、ありがたいことに現在も卓球部繋がりで多くの人達と交流ができています。私の卒業後は2回の学校転移があり、現在の卓球部の活動は全く分かりませんが、部活動を和気あいあいと楽しみながら、お互いが切磋琢磨する卓球部の伝統は受け継いでもらっているものと思います。最後に、「誠」の部旗のその後は？半世紀以上前に制作したのですが、生みの親としては団結の象徴として健在であってほしいものです。

## 2024年芸大祭居酒屋「象の店」繁盛記

2024年の芸大祭は11月1日から3日まで行われました。京都駅東の新天地で2回目の芸大祭ですが、大学としてこの地にも少し馴染んで来た様に思います。芸大祭で課題となるのが飲酒の事です。昨年の芸大祭では直前まで飲酒の可・不可が検討されたのですが、結局不可となり多くの準備物が無駄になった事もありました。今年も学生主催の模擬展では早々と禁酒と決まりましたが、「象の店」が学生の模擬店エリアから離れたの出店が認められ、その結果飲酒後は芸大祭エリアに戻らないなどの制約がありましたが酒類の販売も可能になりました。数年ぶりに飲酒が可能な居酒屋「象の店」となったのです。学生の模擬店は芸大通り（この場所もその名称とともに認知されて来ました）を中心に展開していましたが、同窓会のお店は河原町通を東に渡った柳原銀行記念資料館近くのG棟講義室になりました。

初日は学生の模擬店とは離れているために「象の店」の場所が認知されなく同窓生の来店も少なかった様に思います、また2日目は天候に恵まれずお昼頃をはさんで激しい雨に見舞われました。学生の模擬店は土砂降りの雨のため急遽閉店したようで、その点講義室の「象の店」は営業を続けられましたが、来客は多くはありませんでした。3日目によりやく場所も認知され



G棟講義室

る様になり日曜日でもありそれなりに同窓生にお出で頂きました。今年はメニューにビールと日本酒が加わり久しぶりの居酒屋メニューが復活しましたが、居酒屋時代の湯豆腐などの調理メニューはまだまだ難しく出来合いのおつまみなどが中心でした。来年以降は場所もより認知されてくると思いますし、調理メニューも加えてまたカフェにも磨きをかけて、新居酒屋お休み処「象の店」を目指していこうと考えております。

場所も不案内で天候にも恵まれないにもかかわらずお出で頂きました同窓生、地域や職員の皆様には感謝しかございません。またお店の準備・運営・片付けにご協力頂きました学内外の幹事の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

「象の店」担当 小山 格平



## 退任あいさつ（2025年3月）

構想設計研究室 特任准教授（メディアアート）

人長 果月（ひとおさ かづき）



2020年4月に新型コロナウイルスの混乱の中で着任し、5年間務めさせていただきました任期を無事終える運びとなりました。在任中、大学移転事業をはじめ数々の課題に取り組む中で、学生の皆さんの創作への熱意と努力に何度も励まされました。皆さんの成長する姿が、これからも私の原動力となります。

支えてくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。新たな地で京都芸大の伝統を重ねられると共に、可能性をさらに広げ、発展されることを楽しみにしております。



上村淳之先生 ご逝去



2024年11月1日に同窓会象の会元会長の上村淳之先生が逝去されました。享年91歳でした。先生は本学名誉教授であり京都市名誉市民、文化勲章受章者など輝かしい業績を残されました。最期まで同窓生や大学の未来に思いを馳せておられたとお聞きしています。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 2025年度全体総会・懇親会開催の予告

今年は5年に一度の会員全体を対象とした全体総会の年です。できれば大学を会場に次の日程で総会・懇親会を開催したいと考えています。

2025年7月5日（土） 10:30～ 京都市立芸術大学構内

詳しくは2025年3月下旬～4月上旬、同窓会HPでお知らせし、郵便でもお知らせいたします。

## 2024年度「京都市立芸大同窓会美術公開講座」の報告

一昨年、本学キャンパス移転を機に開催しました「京都市立芸大同窓会美術公開講座」に引き続き、昨年も11月24日(日)、12月1日(日)、12月8日(日)の午前、午後、各2講座ずつ、計5講座と1件のシンポジウムを開催いたしました。

それぞれの講座では、日本画、染織、陶芸、総合芸術、ビジュアルデザインに関して、登壇された先生方の研究者として、また、アーティストとしての長年にわたる研究活動による深い専門知識や経験に裏付けされた奥深く興味ある内容の講話となり、更に貴重な実物資料を拝見させていただくなど、いずれも充実した講座でした。また、本学における専門教育の歴史を辿り、現代、そして今後についても語られるなど幅広いものとなりました。シンポジウムでは、5名の先生方にご登壇いただき、これからの工芸の可能性について、それぞれの立場から熱弁が交わされました。いずれも時間が許せば更に聴講したいと思える講座でした。

今回は広報にも注力し、多くの参加者を迎えることができました。同窓生、学内の先生方、学生、そして市民の方々の参加も多く、遠く愛知県から参加された同窓生もおられ、講座中、熱心に聴講されメモを取られる姿も多く見受けられました。まさしく「開かれた大学」として、今まで以上に同窓生や市民に親しまれ、大学が有する芸術資源を活用し、芸術、文化の発信という形で同窓会活動の一つとして実施することができたのではないかと考えています。

参加されました方々の感想、ご意見、ご要望の一部をご紹介します。

- ・芸大の先生でないと聞けない充実した内容であった。
- ・社会に開かれた大学の役割を見事に果たしておられると感じる。

- ・市民のリテラシーアップに繋がる視点を色々いただいた。
- ・卒業生や在校生に限らず広く一般の方にも開かれたこうした取り組みは良い。
- ・ネットで出てこない情報が聞けた。
- ・講話中メモをし、すべて残したかったくらい良いお話だった。
- ・大変心打たれる講座で、自分の生き方にも胸に迫るものであった。
- ・ここに来ないと伺えない話、上質な時間を過ごせた。
- ・デザインOBとして京芸デザインの歴史や特色などの講座を今後期待する。
- ・リチ先生の美大時代の話は我々学生時代に教育された原点を思い出され懐かしいものであった。より多くの卒業生に来て欲しかった。
- ・学生時代にウイーン工房やリチ先生の話をもっと知りたかった。約25年、デザインの仕事に関わってきた今だからこそ非常に胸に響く内容であった。
- ・自分のルーツを知れたというか納得する部分が多かった。京芸のデザイン教育の在り方についても考えさせられた。
- ・1961年ID専攻卒業生、リタイヤ後の油絵制作に際し、リチ先生の楽しく創作意欲に満ちた授業が役立っている。
- ・より多くの市民参加、魅力的な企画への期待、京都市民は楽しみにしている。
- ・市、区役所と連携し、小・中・高・成人向けの教室、講座、体験教室等希望。

関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

美術公開講座担当 阿部 緑





## 象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

なかがわ りょうじ  
**中川 亮二**

2020年（令2）彫刻専攻 修了

### 「太陽に合わせて動く動物として」

身の回りのものを生活の中に取り入れようとする中で生まれる形を"生活のための彫刻"と呼んでいます。

マットレスやトイレトペーパー、見立てれば何でも彫刻になるのですが、ここ数年は木と関わるが多いです。

毎日の調理や冬に暖を取るための薪であり、夜とりかかる制作の材料であり、竹と組み合わせるための"ハデ"をこしらえるのも、身の回りから集めてきた木々が活躍します。



土に種が落ち、何十年と空気と水と太陽の力を蓄えながら形づくられたそれらを必要な形に加工し、自分たちの生活を支えるものとして使わせてもらう。作物そのものや、食べることの周りに在って欲しいものを作ることが、いま自然に手を動かしたいと思える制作です。

毎年この季節には薪のことで頭がいっぱいになりながら、少しずつ畑に実のなる木を植えています。



放っておくと森に還ろうとする草木の営みとせめぎ合いながら、その他の動植物と同じ、太陽に合わせて動く動物として毎日過ごしています。

次号に紹介される方は、  
おおかわはらのぶと  
**大川原 暢人**さん  
2020年（令2）彫刻専攻 修了

たかみ ひろし  
**高見 博**

1973年（昭48）日本画専攻卒業  
ワンダーフォーゲル部

### 「振り返れば」

京都市立美術大に入学したのは1969年。この年、大学運営臨時措置法が施行されています。周りから少し遅れて美大でも紛争が大きくなっていました。団体交渉で木村重信先生が学生に向き合っておられたのを記憶しています。

アメリカではウッドストック・フェス。そんな時代の空気を吸って、私は60年代の美術シーンに夢中になってきました。在籍する日本画科と距離が生まれていったようです。

それでも何とか卒業。京都新聞求人欄から龍村美術織物就職。子どもが生まれたのをきっかけに大阪市の中学校美術教師へ。校長で退職した後、市の教育センターで教員養成に関わっております。退職前の数年は美術教員の代表を務めていましたので「大阪双線」とのご縁も生まれました。

今年は頼まれた放課後事業マネージャーを務めながら地域のクロッキー会に顔を出し、それが制作に繋がればと考えています。それはあの60年代ミニマル・アートに近いのでしょうか。振り返れば、いつか満足できる表現ができるのではという自身への期待に支えられてきました。それは美大・芸大のモラトリアムな時代に育んでもらった気がしません。感謝しかありません。



次号に紹介される方は、  
なかい あき  
**中井 亜樹**さん  
1989年（平1）日本画専攻卒業

# 学内消息 (資料)

(2024年1月~12月)

1月27日~1月28日	2024年度大学入学共通テスト (追試験)
2月7日~2月11日	2023年度作品展 (大学構内)
~2月18日	久門剛史「Dear Future Person,」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
2月25日~2月26日	2024年度美術学部入学試験
3月3日	2024年度大学院美術研究科博士(後期)課程入学試験
3月6日	2024年度美術学部・大学院美術研究科博士(後期)課程合格発表
3月25日	2023年度卒業式・学位記授与式
3月31日	石原友明教授、高橋悟教授、辰巳明久教授、藤本英子教授、長谷川直人教授、重松あゆみ教授退任
4月1日	谷澤紗和子准教授、田中功起准教授、長谷川江利子准教授、上田順平准教授、西條茜講師、土井亘特任講師着任
4月6日~6月2日	京都市立芸術大学芸術資料館移転記念特別展 京都芸大〈はじめて〉物語 第1期 カイセン始動ス!—京都市立絵画専門学校に集いし若き才能—(京都市立芸術大学芸術資料館)
4月10日	2024年度入学式
4月20日~6月9日	Floating and Flowing—新しい生態系を育む「対話」のために(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
6月15日~8月12日	京都市立芸術大学芸術資料館移転記念特別展 京都芸大〈はじめて〉物語 第2期 「日本最初京都画学校」—京都御苑からの出発—(京都市立芸術大学芸術資料館)
6月29日~8月4日	平野愛写真展「moving days in KCUA」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
6月29日~8月4日	むらたちひろ「記憶の巡り」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
6月30日	美術学部オンライン進学説明会
7月1日	創立記念日
7月16日~7月19日	第36回留学生展
8月4日	美術学部オープンキャンパス
8月24日~10月14日	聞く/聴く:探究のふるまい(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
9月2日~11月13日	2025年度大学院美術研究科修士課程入学試験
9月21日~11月24日	京都市立芸術大学芸術資料館移転記念特別展 京都芸大〈はじめて〉物語 第3期 道を拓きしものたち—知られざる先駆者—(京都市立芸術大学芸術資料館)
10月1日	服部円講師着任
11月1日~11月3日	京都市立芸術大学芸大祭2024
11月4日~12月22日	イザドラ・ネヴェス・マルケス「ヴァンパイア・イン・スペース」(京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA)
11月15日	美術研究科博士(後期)課程オンライン進学説明会
11月21日	2024年度大学院美術研究科修士課程合格発表
12月16日~12月20日	第37回留学生展
12月7日~	京都市立芸術大学芸術資料館移転記念特別展 京都芸大〈はじめて〉物語 第4期 Road to GEIDAI—美術学部改革と新しい教育をめぐって—(京都市立芸術大学芸術資料館)

# 会員展覧会

(2024年1月~12月) ■同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。

会員作品展	
1/22~27	山中 彩 柿渋による染色-表現効果の探求と地域産業との連携- 京都市立芸術大学プロジェクトルームC-106 ①
1/31~2/6	小曾根 環 展 -flowering- 近鉄百貨店上本町店8Fアートギャラリー ②
2/20~3/3	たじまゆきひこ展 新作絵本「花見じゃ そうべえ」原画 ギャラリー ヒルゲート
2/20~3/3	田島征彦展 「曾我蕭白よりGAMA仙人シリーズ」 ギャラリー ヒルゲート
2/20~3/10	井上よう子展 ギャラリー なかむら ③
3/11~16	真木智子展 Gallery 白3 ④
3/19~24	河合 美和 展 GALLERY 恵風 ⑤
3/20~24	阿部 緑 染色作品展 一生命感・精神性のある空間の創造— 京都文化博物館 ⑥
3/26~31	藤井 康彰 日本画展 ギャラリー 高倉通 ⑦
4/4~7	「池田三郎の世界」展 日本画 油絵 銅版画 木彫の鳥 ギャラリー 吉象堂 ⑧



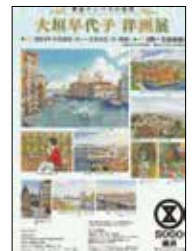
①



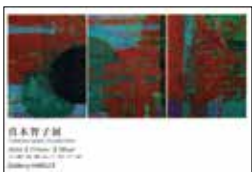
②



③



⑩



④



⑥



⑦



⑧



⑨



⑤

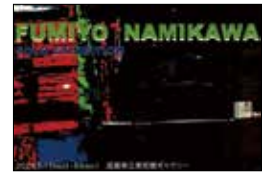


⑪

4/23～28	吉田真紀子展(銅版画・ドローイング)	ギャラリー 恵風	⑨
4/30～5/6	大垣早代子 洋画展 黄金テンペラの世界	そごう横浜店6階美術画像	⑩
4/30～5/5	大村美玲 日本画展 舞妓、そして…	ギャラリー八坂茶閑	⑪
5/1～6	並河富美代一返遷展一	滋賀県立美術館ギャラリー	⑫
5/21～26	田中佳洋 作品展	ギャリエヤマシタ2号館 1階画廊	⑬
5/28～6/2	浅井敬二 個展	ギャラリー 吉象堂	⑭
6/11～16	田中直子 水の森・芦生	ギャラリー ヒルゲート1F	⑮
8/21～27	井上よう子 作品展 一静かな光、記憶の風一	仙台三越7階アートギャラリー	⑯
9/2～7	河合 美和 展	Gallery 白3	⑰
9/7～15	新田恭子 展 一網と夢一	ギャラリー 猫亀屋	⑱
9/20～30	井上よう子 展 一光と青と海の記憶一	枝香庵Flat	
9/16～28	山田俊行 展 没頭絵画/Arcadia	GALLERY H.O.T	⑲
9/17～23	大垣早代子 洋画展 一黄金テンペラの世界一	札幌三越 本館9階 三越ギャラリー	
9/23～28	大城国夫展	ギャラリー白3	⑳
10/1～5/27	山本容子版画展「世界の文学と出会う～カポータから村上春樹まで」	早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)	
10/8～13	森下希和子 作品展 日本画 一豊穣の兆し一	GALLERY MARONIE	
10/19～27	上住 雅恵 展 Fantasy一エーゲ海より +Plus	ラズギャラリー	
10/22～27	森脇 勤 作品展 「水のうつろい」	Gallery吉象堂	
10/28～11/9	渡辺智子 展 「たどり着く庭・約束」	ギャラリー白3 3F	
10/28～11/9	渡辺信明 展 「その向こう。」	ギャラリー白3 2F	
10/29～11/3	吉田 真紀子 展	GALLERY Petit Point	㉑
11/1～3/1	杉山雅之「アトラクションとアクターあるいは登場人物(五ヶ荘にて)」	旧日吉町五ヶ荘小学校 森の学舎五ヶ荘	
11/7～17	西田 真人 展	セイコーハウス6階 セイコーハウスホール	㉒
11/25～12/7	小曾根 環 展 一Breath of the plants一	ギャラリー白	㉓
12/14～24	第48回井植文化賞受賞記念「井上よう子展一みえるものとみえないもの」	ギャラリー島田	

#### 会員グループ展

1/7～13	第61回大阪双線美術小品展(京都市立芸術大学美術教育研究会大阪支部有志)	大阪現代画廊・現代クラフトギャラリー	
1/23～28	京都府私立中学高等学校美術工芸教育研究会 会員作品展	ギャラリー 中井	
1/30～2/4	KIMIETO一日本画展一(石澤素子、高野郁子、武田和子、守屋美保子)	ギャラリー ヒルゲート	
2/13～18	菜展一日本画5人展一(河合美佳、長尾寛子、松村麻里子、池田篤典、橋田純)	京都府立文化芸術会館1F	
2/20～4/14	東京製本倶楽部25周年記念 日比谷でルリユール 装飾(藤井敬子 他)	日比谷図書文化館 3階エレベーターホール	
3/5～10	第48回 GOOD ART展 虹の中に(吉田孝光 他)	京都市セラ美術館・本館2F	
3/18～24	第38回 象展「Show-ten」京都市立芸術大学 美術学部 同窓会展	東京・京橋 ギャラリーくぼた 3F	
3/19～24	Be Flower(阿部緑、大手裕子、河田孝郎 他)	Gallery Maronie space5	
5/18～26	第13回10人10色展(京都市立芸術大学1987年卒業生有志)	知恩院 和順会館 B1F ギャラリー和順	
5/17～29	陶と染4人 へんなもの展(岡村衛人、片山雅美、安芸和美、堀内晴美)	京都陶器会館2Fギャラリー	㉓
7/10～16	京の風物詩 荒尾元・出井豊二・成尾麻衣子 三人展	大丸京都店 アートサロンESPACE KYOTO	㉔
10/5～14	京美・丸池サロン一京都市立美大・芸大卓球部OB展	アートステージ567	㉕
10/19～27	京美・今熊野1966～展(昭和41年西洋画科入学生有志)	アートステージ567	㉖
11/2～12/15	田淵太郎 X 岡本尚子 二人展	高松市塩江美術館	㉗



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲



㉑



㉒



㉓



㉔



㉕



㉖



㉖



㉗

● 本号会報は、同窓会費を収めていただいている同窓生に送っています(終身会費または年会費を過去3年間に納入された方)。次号は全体総会の報告や会費請求がありますので全員に送る予定です。

### ● 同窓会活動に参加希望の方へ

2025年は同窓会の全体総会を開催し、同窓会幹事・役員を改選する年に当たります。同窓会活動に幹事で参加を希望される方は、卒業専攻研究室の同窓会学内幹事(又は同窓会事務局)に申し出てください。申込期間は2025年4月1日～30日です。

### ● サグラダ・ファミリア石膏像常設展示プロジェクト、クラウドファンディングご協力のお礼

本学では、サグラダファミリアに設置されていた石膏像(歌う天使たち)を迎えるための経費を賄うためクラウドファンディングを昨年10月から本年1月8日まで実施し、同窓会も幹事役員の皆様に協力をお願いをしましてまいりました。目標の3,000万円に対し2,940万円(98%)の結果でした。皆様のご協力に感謝いたします。

## 次の場合は、事務局までご連絡ください

### ● 同窓会後援名義使用

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援を希望される場合。

### ● 展覧会の案内、情報の掲載

同窓会に送っていただいた展覧会の案内や情報はホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載を希望される場合は展覧会内容、DMデータなどをメールでお送りください。

### ● 満80歳以上の会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で会費免除を希望される場合。

### ● 氏名、住所、電話、FAXなどの変更時

お忘れになると会報など送付物のお届け、連絡が出来なくなりますので、郵送、FAX、メール、または同窓会ホームページの住所変更フォームからお知らせください。

## 本学次期理事長(学長)予定者を選出

本学の赤松玉女理事長(学長)の任期が2025年3月末で満了するため、2024年11月に次期理事長(学長)予定者の選出投票が行われました。その結果、小山田 徹先生が選出されました。2025年4月から2029年3月までの任期です。小山田先生は1987年に本学日本画専攻を卒業、ダムタイプの創設メンバーなどで活躍され、現在は本学彫刻専攻教授。

## 編集後記

● 東海道五十三次の終着点に位置する三条大橋、その西詰に棕櫚製品の箒やタワシ、刷毛を商う内藤商店があります。外には看板など表示がないので、店名を言っても分かってもらえません。表示のない理由は店先に並んでいる品物を見ると何屋かわかる、良いものは買ってもらえるという先代からの申し伝えだそうです。武士であったご先祖が店を構えられたのは、これからは侍の世でなく商売の時代になる。三条大橋近辺には旅館が多く、掃除用品の需要を見込んで商いをされました。正式な店名は桔梗利内藤商店、現在の主人は七代目の内藤幸子さんです。昭和10年のお生まれながらお元氣そのもので、毎日店先に出られています。最近では外国人旅行者が買い求めに来るため、ホウキの柄を短くしてトランクに入るサイズにしたら好評だそうです。

世界で多発する紛争、地球温暖化、エネルギー問題、少子高齢化等々も、ホウキで一掃できないものかと感じる次第。幸子さんの手を拝見するとすべすべとして色艶の良いこと、毎日タワシを使っているお陰と自慢されました。

● 巳年の今年はどうのような年になるのでしょうか? 災害のない穏やかな一年であってほしいと願うばかりです。本報80号発行にあたり、記事を執筆していただきました方々に厚く御礼申し上げます。今後とも皆様のご投稿、ご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

(編集委員長:出井豊二)